

ウエイ ラ ミン テイエン

# 为了明天

明日のために

**子どもたちに希望を 人々に友情を**

特定非営利活動法人 宋慶齡基金会 日中共同プロジェクト委員会

<http://www.sokeirei.org>

## 来年は辛亥革命百周年

——孫文の理想は、まだ生きている——

久保田 文次

1911年10月10日(旧暦宣統3年8月19日)、中国湖北省都の武昌(現在の武漢市)に駐屯していた清朝政府軍第8師団の工兵大隊の下士官・兵士たちが武装蜂起し、蜂起は他の部隊に波及し、またたくまに、隣接の漢口・漢陽(ともに現武漢市)も革命軍の手中に落ちた。革命はさらに華中・華南に拡がり、1912年1月1日、南京に中華民国臨時政府が成立、孫文が臨時大總統(大統領)に就任した。2月12日、宣統帝溥儀が退位し、清朝は滅亡した。宣統3年は干支(えと)では辛亥(かのとい)にあたるので、10月に勃発した革命を以後辛亥革命と呼ぶようになった。孫文は中国人を奮起させ、後に三民主義と総称されるようになった民族主義(満州族王朝の打倒・国際的地位の平等)、民権主義(主権在民の共和制)、民生主義(工業化と社会福祉)の実現によって、中国を富強の域に導こうと志していた。

辛亥革命の成果は間もなく袁世凱に奪われたので、孫文はその後も中国国民党を創設して革命運動を続け、1924年には中国共産党と

の協力関係(「第一次国共合作」)を樹立し、蒋介石・毛沢東もこの中で活動した。同年11月、孫文は広東から北京へ行く途上、宋慶齡夫人とともに神戸に立ち寄り、有名な大アジア主義に関する演説を行った。演説では日露戦争における日本の勝利の意義を評価しつつ、中国の条約改正への理解を求め、日本が「西洋覇道の鷹犬(帝国主義の手先)」となるか、「東洋王道の干城(かんじょう、城の意)」となるか問ひかけ、日本に帝国主義的政策の放棄を求めた。これが公衆の面前における孫文の最後の演説であり、1925年3月12日、「革命未だ尚成功せず」との遺言を残して北京で客死したのであった。

孫文死後、蒋介石を最高実力者とする国民党と後に毛沢東が率いることになった中国共産党は間もなく、内戦を始めたが、1930年代には日本の侵略に対抗するため、統一戦線(第二次国共合作)を結んだ。対日戦勝利後は内戦が再発、共産党が勝利して、1949年に中華人民共和国が成立、国民党は台湾に逃れ「中華民国」を維持した。

(次頁へ続く→)



1912年1月 中華民国臨時大總統就任時の孫文

人民共和国では社会主義建設が開始され、成果を挙げ、列強との不平等な関係は解消され、国際的地位を向上させた。しかし、毛沢東の主導した「大躍進」や「文化大革命」は大きな災厄をもたらした。1978年以降、鄧小平主導の「改革開放」政策によって、中国の経済成長はめざましく、今や、数量的には世界第二位の経済大国にまで成長した。この改革開放は、外国資本や経営方式の導入、株式会社・個人経営の容認など、孫文の「民生主義」に共通する点が多い。台湾では、人民共和国よりも早く経済成長が始まったが、それを促進し、合理化したのも、民生主義であった。現在、大陸と台湾の経済関係は緊密になっている。両者とも、辛亥革命時の孫文の独立富強の理想をかなり実現したといえるのである。また、大陸では経済成長に伴う格差・矛盾の拡大が深刻な問題となっているが、共産党・政府は調和



1924年11月 北上の途上、神戸に立ち寄った時の孫文、宋慶齡夫妻。この時孫文は有名な大アジア主義演説をおこなった。

のとれた「和諧社会」をめざしている。この面でも、民生主義は大いに参考になるといえよう。

来年2011年は辛亥革命の百周年にあたり、中国では台湾側の協力をも得て、盛大な記念行事が予定されている。オリンピックや万国博覧会の開催で自信をつけた中国が、どんな思いで本格的近代化の出発点としての辛亥革命百周年を祝うか、良く理解できる。学術方面では革命発祥の地武漢で辛亥革命百周年記念の国際学会が開かれる予定で、私の手許にも10月11日～16日開催の案内状が届いたばかりである。辛亥革命や孫文に縁の深い日本においても、学術面では東京・神戸で「辛亥革命百年」の国際学会が開かれる予定で、その組織委員会が結成され(山田辰雄委員長)、神戸の孫文記念館等と協力して、本年度から活動を始めている。また、福田康夫元総理を委員長とする「辛亥革命100周年記念事業日本実行委員会」が発足し、上海万博会場では「孫文と梅屋庄吉資料展示会」も催された。

多年外国の圧迫下にあった中国はアヘン戦争以来の屈辱感を払拭できる段階に到達した。多くの問題をかかえているとは言え、辛亥革命百周年を迎える中国の人々はそのことを実感できるであろう。対中国戦争時代に育ち、分裂と混乱の中国を見慣れながらも、中国史研究を続けてきた私にとっても、誠に感無量である。日本は日露戦争によって世界の一等国家になったと有頂天になり、ついに、孫文の勧告した「王道」を捨てて、「霸道」を採り、中国やアジアに対する侵略を進めてしまった。ナショナリズムが高揚しすぎた日本の失敗から中国が教訓を得ることを期待する。孫文の理想はまだまだ、「民権主義」の確立(政治体制改革)等多くの到達目標を示しているのだから、百周年を機に熟思するのも、記念事業にふさわしいと思っている。日本人はこの百年間の日本の歩みを回顧し、再び覇権国家にならないように努力すべきである。

# 中国の高齢者福祉

日本女子大学 沈 潔

中国では2000年に、60歳以上の高齢者人口が10%を超え、高齢化社会に突入しました。さらに2008年末、60歳以上の人口は1億6000万人を超え、全世界で高齢者人口の最も多い国となりました。高齢者の増加によって扶養負担が大きくなるという構造を迎えるにあたり、年金、医療、ケアサービスなど高齢者の生活保障システムの整備が、必然的に急務の課題となります。

## 1. 農村における在宅福祉サービスの整備

2008年1月に全国老齡委員会、民政部、衛生部、労働社会保障部など諸官庁の連名で公布された「全面推進居家養老服務工作的意見に関する」指針では、在宅福祉サービスの整備について新しい考え方が示されました。これは遅れていた農村部の在宅福祉サービスの展開に力を入れるという方針を明確にしたことです。つまり、郷・鎮レベルでは総合高齢者福祉センターを、村や大きい集落では高齢者福祉サービス供給拠点を設けることにより、在宅福祉サービス供給事業を拡充するとともにサービスの多様化、質の向上を目指すというものです。つまり、家族内で介護するという従来の考え方から、地域の住民全体で高齢者介護を支えていこうとする考え方への移行、在宅福祉サービスの重点を都市部から農村部へ移そうとする意識の変化を意味するものです。

## 2. 施設福祉の対応策

一方、施設介護福祉サービスの拡充も急速に進められました。公的なデータによると、2009年まで民政部に登録された高齢者福祉施設は3.9万カ所、ベッド数は275.4万床となっています。



2000年以後は全国的に、高齢者福祉施設の建築ラッシュに入りました。例えば、先進地域の上海では、1997年の時点ではたった20カ所だったものが、2007年末では560カ所、ベッド数69,785床となり、2009年には、615カ所、ベッド数89,900床まで増加しました。\*このうち、非営利団体が経営するものは321カ所、ベッド数47,900床です。上海政府は高齢者福祉施設における非営利団体の参入を積極的に推進し、1ベッドあたり5000元の補助を交付したため、非営利団体の介護ベッド数は大幅に増加しました。

今後の課題として、下記の2点を挙げておきます。

まずは、現行の貧困高齢者に対する救済制度が、財政にゆとりのある自治体でしか導入されていないことです。貧困地域の低所得高齢者はこの支援制度に無縁であり、地域格差と貧富格差という二重の格差を背負わされています。全国的かつ統一的な貧困高齢者に対する生活保護制度の創設が急務となっています。

もうひとつは、現状の制度では、都市部、

農村部にかかわらず「空巢」（高齢者のみの世帯を指す）の増加を食い止める効果がないことです。特に「空巢」高齢者世帯の入所施設に対する期待がますます高まっていく一方で、介護施設の絶対数の不足や画一的なサービス

といった問題のため、ニーズが満たされていないことを考えると、供給と需要の溝を埋めることが今後の課題であると思われます。

※ 2009年上海市民政工作発展報告書より

## “孫中山宋慶齡思想を広げ、調和世界を建設しよう”

### 世界宋慶齡基金会主席フォーラム参加報告

JCC理事 井岡 健

来年の2011年は、中国が帝制から共和制に転換した辛亥革命100周年記念の年となります。宋慶齡基金会の活動を中国国内に向けてアピールし、各国及び中国国内の各地域の基金会の交流を深めるために、中国宋慶齡基金会、中国福利会及び上海市政府の主催で、2010年7月19日から22日まで、北京と上海において、世界宋慶齡基金会主席フォーラムが行われました。世界10カ国の宋慶齡基金会及び研究機関から、約70名が参加しました。

諏訪代表、川崎副代表（事務局長）、井岡健理事（事務局次長）、井岡今日子理事が宋慶齡基金会JCCを代表してフォーラムに出席しました。各国代表の活動報告に並んで、諏訪代表は孫文・宋慶齡と日本の友人達との交流を中心に、日本人志士が孫文の革命活動を支援したこと、また日中の民間レベルでの古い交流



の歴史を中心に報告しました。JCCの有するような歴史的交流は、世界宋慶齡基金会のなかでも、特筆に価するものです。これに続き、主催者側から、前身の宋慶齡日本基金会の時代から今日に至るまで、日本の宋慶齡基金会が中国の貧困地域の子供達に対する持続的援助を行ってきたことに対して、詳しい説明と感謝が述べられました。

今回のフォーラムは、宋慶齡基金会の活動を中国国内向けにアピールする目的もあったため、7月19日には北京の人民大会堂で中国政治協商会議賈慶林主席との会見も行なわれ、その模様が中央テレビのニュースで放映されました。

いま、日中関係は難しい局面にあります。日中関係を成熟したものにしていくなめには、交流と相互理解が何より大事だと思います。今後も宋慶齡基金会JCCの活動を通じて日中間の交流と相互理解に努めて行きたいと思っています。



# 追悼

酷暑の夏、浜田糸衛さん、上村節子さん、相次いでご世界

■初夏6月13日、日中友好神奈川県婦人連絡会(婦連)名誉会長浜田糸衛さんが102歳のご長寿を全うされました。浜田先生は、当会の前身宋慶齡日本基金会創設(1984年9月)の発起人のお一人であり、評議員に任じ、2000年のJCC発足後も継続して、婦連を率い、歴史認識を踏まえた宋慶齡基金会の事業(中国の幼・少年児童育成及び母子保健事業支援)に大きな励ましと力を添えて下さいました。「戦争は、したらいかん!絶対にかん!」「どんなことがあっても日中友好!」と断言された、晩年のお姿が脳裏に焼きついています。



浜田先生のご生涯は、明治、大正、昭和、平成の4代に亘る日本の高揚と野望と崩壊、そして復興と平和への模索の中を、人間の喜びと真理を探して小説家・童話作家としてペンを執り続け、同時に、それらを如何にして現実の社会の中で実現していくかに心を砕き、実践されました。敗戦直後の戦災孤児救護活動を皮切りに、他方、女性の間としての独立を培う女性運動において指導的役割を果たされ、併せて女性運動は、世界平和をもたらす、守るものであるとの信念に立っておられました。生涯かけてのご奮闘に敬意を表します。

■盛夏8月16日、宋慶齡基金会JCC設立発起人のお一人であり、前監事の上村節子さんが果敢な闘病の甲斐なく逝かれました。喜寿を迎えたばかりでした。上村さんは、JCC発足前年の1999年、故須藤れいさん

とご一緒に、高齢者福祉・保育事業に携わる方々を誘い、〈中国老幼施設視察の旅〉を企画され、中国宋慶齡基金会の案内で黒竜江省ハルビン、陝西省西安、北京市の諸施設を参観、交流されました。また、ハルビン郊外の旧日本帝国陸軍第731部隊の生物兵器開発・人体実験機関址(記念館)を参観して、心を痛められました。



その帰国後、上村さんは、宋慶齡基金会事業への協力を呼びかけ、ご自分もJCC設立の発起人として、最初の事業―“ハルビンに幼稚園を建てよう”に取り組んで下さいました。多くの方々のご協力もありましたが、彼女が資金の三分の一以上を集めて下さいました。あの円筒形3階建ての園舎は、東北工業大学構内に“幼児芸術教育中心”として子ども達の夢を育てています。

上村さんは、大連で生まれ、2歳の頃旧満鉄で要職に在った父君の転勤に伴いハルビンに移り、花園小学校を経て富士高等女学校に入学された夏、敗戦を迎えました。帰国後日本女子大学に進み、大学院を経て、終始幼稚園・保育園事業の専門家として、ある時期には、高齢者施設の指導と経営に当って生涯を終えられました。大地に育まれた大らかさに厳格さを併せ備え、優しく、楽しい方でした。ありがとうございました。

(久保田 博子)

2010年

- |   |                      |
|---|----------------------|
| 5月22日 第16回JCC中国講座「高齢者大国 中国の社会福祉をめぐって」講師：沈潔さん    | 24日 浜田糸衛さんを送る会       |
| 24日～25日 上海宋慶齡基金会理事会出席(包衛青)                      | 8月22日 上村節子さん(前監事)告別式 |
| 6月26日 第74回事務局会議                                 | 9月18日 第76回事務局会議      |
| 7月17日 第75回事務局会議                                 | 10月31日 第77回事務局会議     |
| 18日～23日 第3回宋慶齡基金会主席フォーラム参加(諏訪きぬ、川崎高志、井岡健、井岡今日子) | 第27回理事会              |
|   | 11月17日 “為了明天” 第19号発行 |

## JCC中国講座 第17回

予告

### 中央アジア・南コーカサスの政治経済の現状と日本の役割

講師：田中哲二さん(国連大学学長上級顧問・中央アジア・コーカサス研究所長)

●著書：『お金の履歴書』(東洋経済新報社) 『キルギス大統領顧問日記』(中公新書)

1991年に旧ソ連邦から独立した中央アジア・南コーカサス諸国(中国に隣接する8カ国)は、いま市場経済と民主主義国家の建設に邁進しています。

しかし、現実の市場経済化は東アジアに比べゆるやかなテンポで、政権は独裁一步手前の権威主義的

日時 2010年12月4日(土) 午後2時～4時  
場所 八王子クリエイトホール 第2学習室(11F)  
参加費 500円

なものです。この4月の「キルギス第二革命」も民主化と経済成長(=国民福祉の向上)のタイミングのズレが基本的な原因です。ロシア、中国、米国、EU等ビッグパワーが静かに角逐する中で、日本は主に経済を中心に環境、医療、教育、観光開発等で高い技術と共通のアジア文化に則った着実な協力・支援をしていく必要があります。1993年以来当該諸国と往来していますが、独立直後の強い親日観がやや後退気味であることが気にかかります。

主催 NPO法人 宋慶齡基金会日中共同プロジェクト委員会 問合せ TEL&FAX 042-646-4210

## JCC中国講座 第18回

予告

### 現代日本の課題 —上海で働く日本人女性から見えてくるもの—

講師：石川照子さん(大妻女子大学比較文化学部教授)

プロフィール：比較文化学部教授。専門は中国近現代女性史・社会史(女性史、ジェンダー論)。2009年4月から2010年3月まで、在外研修で上海に1年間滞在。

現在10万人の日本人が在住するという中国最大の経済都市上海、そこで働く日本人女性たちから見えてくる現代日本社会及び企業が抱える問題について、アンケート調査をもとに、ジェンダー視点から考察します。

日時 2011年5月14日(土)

## 編集後記

猛暑・猛暑・熱中症…と喘いだ長い夏のあと、不意に到来の寒気の速さもまた未曾有とか。短い秋の青空を仰ぎ、紅葉の美を喜ぶにつけても、余りに激しい気象の変化や災害が無いように、環境の保護を、世の平和をとひたすら祈るばかりです。明日の為に!子どもたちの為に…!! 向寒の季節、皆様何卒お体をご大切に…。お互いに、元気に過ごしましょう。(三浦)

## 「為了明天」No.19

2010年11月17日発行 編集：三浦・井上  
発行者： 題字：周肖  
NPO法人 宋慶齡基金会 日中共同プロジェクト委員会  
代表理事 諏訪きぬ  
〒192-0904 東京都八王子市子安町1-43-6-206  
TEL/FAX 042-646-4210  
郵便振替：00170-2-152423  
三菱東京UFJ銀行八王子支店(普通)4731623